特別
チ12
3643
57

言葉乃璞

はいらの字は婆毘蜉倍謀と清音にも通ふ
和謂字考云
やいゆ延よと 和謂の字 ハ おまじへて用る例え

故梅若誠太郎氏
昭和四年五月廿日
梅若重氏
寄贈
新宮城図書

いかゝくハ延か…ことのり…

日外 イツゾヤ
魁 イサヲシ
所謂 イフナラク
道説 イフナラク
惻愴 イタム
倡行 イザナフ
倡
倡 イザヤ
畀晩 イツカ
厭足 イデ 発語 又乞
専
太
新好
孰謂 イカニシテモ
許多 イクバク
幾許
幾
将々 イデヤ
最度 イトド
兕 イデヤ
経営 イトナミ
営
著明 イチジルシ
怵然 イチジロク
嫣
寂 イト
寂媚 イトナマメク
餘 イタク
孫豆 イヨダツ
竪立 身ノ毛
墹 イセキ
率 イザ 又誘来
御 イケス
欝悒 イブセシ
不審 イブカシ 訝
悒憤 イブセキ 万葉
畀晩 イツカ
向 イツクヤ
倡
伊 イツハリ
発
龍準 ハナダカ
棘鹿 ハヤシ 神代ノ
蕃 ハゲル 矢ノ
礌 ハタト アタル
嗒 ハタト
渥 ハタテ 雲ノ
暴風 ハヤテ
日本紀ニ迅風洪濤 ハヤチナミ テトトト 通音也
鵰 ハシタカ
鶚
箸雁鳥
肌 ハダヘ
無討 カタナシ
聲 ハナヤカ
花艶 ハナヤカ
斜眼 ニラム
白眼
艶 ニホヒ
餘光 ニホフ
卒然 ニハカ
縹 ハナ
帽 ボウ
子 シ
風聞 ホノカニキク
髣髴 ホノカ
側
仄
天明 ホノグ
祝子 ホフリコ
廓 ホソドノ

俗語考云
はいうの言葉と婆毘浮倍保と清濁あい通ふ
やいゆ延よと和漢の音ハあまじへて用る例也

故梅若誠太郎氏
昭和四年五月廿日
梅若重氏寄贈

已久也（イソヒサシ）　往昔ゝ思ハ彼行来し絶久し也
寵愛（イツキカシヅク）
傅（カシヅク）
所謂（イフナラク）
道説（イフナラク）
惻隱（イタミ）
倡行（イザナフ）
倡
倡（イザヤ）
昇晩（イツカ）

專（イトヾ）
太
新好（イトカシ）
執謂（イカニシテモ）
許多（イクバク）
幾許
幾

将々（イデタク）
先（イデヤ）
經營（イトナミ）
営
著明（イチジルシ）
沸然（イキドホロシ）
嫡焉

最（イト）　最度
寂（イト）
寂媚（イトナマメク）
餘
孫立（ヨダツ）
竪立身毛
壇（イセキ）

御（イヌス）
懋悒（イブセミ）
不審（イブカシ）
悒憤（イブセミ）
卑晩（イツカ）

率（イザ）　又誘来
歔欷（イザ発語）

龍隼（ハヤブサ）
林鹿（ハヤマ）　神代　林鹿ラニ
蕃矢（ハゲル）
碯（ハタトアル）
澟雲（ハタテ）
暴風（ハヤテ）
日本紀ニ迅風洪濤ハヤチナミチトト通音也

鶻（ハシタカ）
鶺鴒
箸鷹
肌（ハダヘ）
無計（ハカナ）
聲花（ハナヤカ）　花麗（ハナヤカ）

縹（ハナ）
斜眼（ニラム）
白眼
艶（ニホヒ）
餘光（ニホフ）
卒然（ニハカ）

帽子（ボウシ）
風聞（ホノカニキク）
髣髴（ホノカ）
側
仄
天明（ホノグ）
祝子（ホフリコ）
廓（ホゾ）

噵 どうどうと

鈨
朗
肚 ホガミ
小腹
最手 ホテ 勇

鬱悒 オボツカナシ
長 トコシナヘ
鎮常
鎮
終古
時勢
時明
風時 動也

左右 トモカウモ カナスコナス
鼕鼓 ドウ 鼓声也
鼕
膓 トボソ
年来 トシゴロ

折境 [illegible]
想像 オモヒヤル
逞迹
押靡 シナベテ 推並
零落 オチブレ
所念
小止 ヲヤミ 雨
喚 喚叫 叫吽

綣 又 光繋
喧 郷音 オキトナヒ
縮 [illegible]
轉
靦 面慚也 オモテル
小緣 オボロケ
惨 オビタヽシ
繕 ゼン 補也 オギヌフ
憔悴 カシカム

歌詞のカガミの字
左右 カタヘ
翩翩 カケル 舞
奏 カナヅル
岸波 カツハト
云給 云恰
般 カナヅル
捜 カナグル
繚 ゲウ
不屑 カズナラス
離々 カレヽ
徒跣 カチハダシ
離支 カドデ

万葉集のカタカナ
雛[illegible]字ヲ
[illegible]

穴且 カカガリ
曲所 カケマクモ
傴 カゞム 腰ヲ
屈 カゞム
鹿杖 かせぎ 云 又 橫首杖
駄 カセヅエ
各女
首途

如 月 カル
篤 豫 カネテ
夯 カウ
彀 ヤゴロ
恩愛 オン
羈 キヅナ
絏 [illegible]
彊 キョウ
強 キヨシ

澍 ジュ
洒 サヽグ
手弱女 タヲヤメ
風流男
當初 ソノカミ
往昔 ソノカミ
無端 ソゾロ
昔日
戰 ソヨグ 艸
睇視 ソラメ
瞳
哇 [illegible]
彷徨

暫時 ツカノマ
牽紋 ツナデ 舟
綱手 船ヲ引
佞人

丨部
コン 丨部
チツ 丨部

歌詞のかな の字
冀 ガモナ

万葉にかくとかへ
離乃字又跡
の字を書て
うたくへとさ
ろうるによあり

左右 カナタコナタ
翳羽 カザシ 舞
穴且 シショ カクバカリ
之 カバカリ 氏

奏 カナヅル
岸波 カツハト
由所 カケマクモ

云祫云恰 カレトイヒコレトイヒ
般 ダマ カナグスル
捜 カナグル カナグリ
僂 カゞム 腰ヲ
屈 クツ カゞム 膝ヲ

繰 ザウ カトリ
不肖 カズナラズ
離々 カレガレ 州
徒跣 カチハダシ
鼓 テイ カセヅヱ
○鹿杖 かせぢゑ云 又撞首杖
容与 カホバセ 赤セ
憔悴 カジケタル
離支 カダチ
首途 カドデ

○如此有 カクアル
豫て カネテ
簡様 カホド

一夯 カツ ニチフ
瞉 コウ ヤゴロ せごろ
彊 キヤウ カウ コハシ ツヨシ キナテ
強 キヤウ カウ コハシ ツヨシ シイル
恩愛ノ繫 オンアイ キヅナ
紲 乳 沚 氿

手弱女 たおやめ
風流男 みやびを
彷徨 さまよふ
當初 ソノカミ
往昔 ソノカミ ワウジヤク
昔日 ソノカミ
無端 ソゾロ
唑 コ
戰 ソヨグ
艸ノ オクノモ
睇視 ソラメヅカヒ
瞻 ソラ
董 ダキ

謝 ジユ シヤ ソヾグ
洒 セイ サイ ソヽグ アラフ スヽグ サラス

方をがに
副ハ兼ネの
字をさへと
よくてやは
そひげりそ
ろうし

暫時 ツカノマ
傒人
僱
率紋 ツナデ
沐舟 舟ヲヒク縄
○綱手 船ヲ引之

ほの見ゆる
ぬかとへの字
かりてはの
ぬかれも〱
以つ〱の字之
ハ色云御お

胙 ソ ヒモロギ サイハヒ ムクフル タマモノ クラヰ
祚 ソ
寶祚 ホウソ あまつひつぎ 寶祚を守らんがため
座 ザ イマシドコロ シリドコロ ソラ
祓 フツ ハラヒ ハラフ イサギヨウス みそぎせ
偐 ジ ナンヂ
儐 ヒン
賓 ヒン ヒロド まれびと
鬒 シン ヒゲヅラ
縎 コツ ムスボル
睨 ニラム ニランデ
肌 ハダヘ
膚 ハダヘ
旰 カン ヒダタル 暮也
轍 テツ ワダチ
甑 コシキ サラ
裒 シウ ソデ
袖 也
袂 ヘイ タモト ソデ
衽 ジン エリ
契 ケイ ワリフ チギル アハスル キザム ウレフ 又キツ ケイ タツ キル カクル クルシム ヘダツル
艶 ヤサシ

嚙 どうどうと

鬱悒 オボツカナシ

折境

綣 又 充繫

歎詞のかな の字

長 左右 トモカウモ カナメカナメ

想像

喧 郷音

綰

左右

殿翁

穴且

鎮常

鼓登 鼓声也

遠迹

奏

岸波

曲所

鎮

傻

云 袷

刅

耽

笳

朗

肚

小

奄 カウ チフ

殻

恩愛 オンアイ

繫 キヅナ

細丸 ニ 丸

彊

強

炬

不行

不手留

徒倚

行粧

交

傍側

畫引

一部 イツ

カズ　スクナシ　マコト　ヒトツラ　ヒトヘ

ハジメ　ヒトヘニ　ヒトメビ　カタキ　ヒトツニ

モハラ　オナシ　カタクチ　ナシ　ヒトシ

ヒトツ　キハマル　ヒトリ

丨部 コン

スム　シリゾク

丶部 チツ

シルス

慟 どうどうと

筑

朗

肚

鬱悒 オボツカナシ

長

鎮常

鎮

左右 トモカウモ カナタコナタ

鼓登

皷声也

鼓

想像

逞迹

喧 オトナヒ

郷音

押

折境

境節

縮 ツヅマヤカ

轍

倭 又 兎繋

左右

奏

岸波

殿翔

曲所

宍且 カバカリ

傀 腰ヲ

云

般

歌詞の字

奇 カウ テフ

穀 コウ

恩愛ノ繋 キヅナ

彊

強

紬

澍 ジュ

洒

手弱女

風流男

當初 ソノカミ

往昔

昔日

無端 ソゾロ

戰

瞬視

暗

薫

暫時 ツカノマ

牽紋 ツナデ

綱手

佞人

堂

夫副

歐

敲

聳 ソビユ

峙

踈

不手留

炬

不行

行粧

徒倚

傍側

強面

熟

納

不覺

一 部

丨 コン 部

冖 チツ 部

嘐 どうどうと
鬱悒 オボツカナシ
折境 境節
綏 又 危繋
歎詞のかずは の字

筑
朗
肚
長
鎮常
鎮
左右 トモカウモ カナタコナタ
鼓鼕 鼓声也
鼕
想像
遠迹
呷嚥
喧 郷音
葦車
縮
轍
左右
殿羽
奏
岸波
云 給 云
宍且
由所
傻 腰

一夯
分肩
歸於
潛
諠譁
記念 仙遊
信
㚇
傍側
時々
便
縁水
透
迤 裏へ行
徒倚
俊登
弥立 身ノ毛
来門
縦
不行
行粧
容易
輙
窈窈
劇 道ヲ
劼
躂着
炬
不手留
手弱女
風流男
彷徨
咥
憓
夫副
直也
踈惚
當初
往昔
無端
歘
敧 枕ヲ 耳ヲ
聳
峙 山
戰
睇視
瞻
薫
底濘
暫時
牽紋
綱手
揺
掐
納
強面
侫人
熟
一々

丨部 コン
丶部 チツ

慣 ナラヒ ナラフ

○風俗 ナラハセ ナラハシ ナラヒ トモ　阿 ナラビ車ナ　愛敬 カホカシキ 　

耳従 ナミカセン　○餘波 ナゴリ　懐 ナツカシ　喃々 ナンナン　○和 ナゴメ ナゴヤカ　愁 キン トフ ツトム ヤブル シバラク トヅル ツヨシ イサム ナニガレイ　滑 ナメラカ

掬 キク ムスブ 水ヲ　欝結 ムスボル 氣ノ　縎 コツ ムスボル ムスビテトケズ　締 テイ ムスブ ムスボル ムスビテトケズ　纐 レイ ナガキケ ケムスボフル　夭紹 ムスボル　媚 ナマメク　婀娜 ナマメク　窈窕 ナヤメル

咉 ムセブ又咽 ムセブ 因 中 コメヘル　無手と組 ムズ

卒尒 ウチツケ　浮石 ウカルシ　刧 ウカラカス　映 ウツロフ　衰 ウツロフ　坑 ウツロ　溶 ウネル 波ノ　末弭 ウラハズ

孅妍 ウハナリウチ　泆 ウヅマク 水　影護 ウシロメタシ 心元ナキこと　薄情 ウスナサケ　踈薄

靡 ノバフス

口号 クチズサミ　眊 クラム 目ノ　阿 クマ 水ノ　隈 クマ 山ノ　嘎 ソラナル

徘徊 ヤスラフ　省 ヤツス　彀 コウ ヤゴロ ハリユミ　艶 エン ヤサシ

路河 隈曲山河

○郎 ヤガテ

見 ケン マミヘ マミエル

面 メン アタリ　廷 テン アタリ　少眠 マドロム 目眠

目下 マノアタリ　随意 マニマニ　瞬 マタタキ　撃 マダシ　疏 マバラ

勇 イサム　健氣 ケナゲ スクヤカ　現 ゲニモ　不怪 ケシカラズ　伶 レイ まいびと　扶疎 マバラ

擱 ハズ　艦 フナバタ　踏躪 フミニジル　蜿蜒 フシコロブ　蹉跎 ツマヅク　鼕鼕 トウ　挙止 フルマヒ　振動 フルマヒ　居止 フルマヒ

○まさきづら　○さかゆく

チジシ 筑子 コトワザ こきりこ　高麗 コマ 笳 こまぶえ　○意旨 ココロバヘ　憧 コガルル　頃日 コノゴロ 頃年 コノゴロ　今茲 コトシ　今般 コノダビ　○ふしづけ 捕魚おく　行跡 フルマヒ　威儀

事業 コトワザ　比及 コロホヒ　和名抄に布之都介　字鏡に不志豆介乃木　罧

桜往 コシカタ　擒 テゴメヘ　化 アダ 化波 アダナミ 化世アダシヨ あだし野の露　惟谷 ココニキハマル　忙然 アキレ　狂浮 アクガレ　分暁 アキラカ　形勢 アリサマ　分野 アリサマ

閼伽水 アカ　寶祚 アマツヒツギ　○適 テキ　所有 アラユル　盈 アマリ　憫果 アキレハテ　著明 アキラカ　炳然 アキラカ　炳焉　彼方 アナタ　此方 コナタ

展明 アリアケ

籟 サヤ 沙ケ　儕雪 アタリ ユキ 天晴　○無端 アヂキナシ 味気無 山中　不知善悪 アヤメモシラズ　浮岩 アクガレ　○嗄 サガル　噪 サワグ

有繫 サスガ　爾裎 サルホドニ　潔 サヤケシ 月ノ　洹 サヤケシ 月ノ サエル　さやけきハ清とかけり　冷 サヤカ　亮 サエル　跧 サスラフ ユク　跉跰 レイヘイ ノ二字ヲ サマヨフト ヨムベシ

薄 流石 サスガ　瑛石 サザレイシ　安定 サダカ　負 ナゾナゾ　無善 サガナシ　雨々 サメザメ 泣　○吟 サマヨウ　諾 サモ　任他 サモアラバアレ

○風体 フウテイ　○牡鹿 サヲシカ　○如五月蠅 さばへなす　さゞれいし 細石　寂寞 サビシ　噎 サンザン　呻吟

○ゆきつゝふ 往ツ交ム ゆきつゝしふげきちぎも云

○ゆふ 木綿を訓 男将ーして由不と云り 後ハ穀乃木の皮もて造る さも由不といへるハ眉生の糸綿ハ久しくれハあり

ゆふハもと野蠶之語のもとハ眉生ある也

佐キツ 佐イサヽカ サカシ ○端正キラく 雲母キラ 野樵ニキラくシ 綺羅ハ衣物ア 夕ユウ 榮ベ キラ

○弭ゆハズ ゆみハズ 所縁ユカリ 由縁 動ユルグ

○感メデ 閑雅ミヤビ 窈窕ミヤビヤカ 嬰子 身毛弥立又竪 濾聲 身毛彌竪 所為 作業

三津ノ 瀞ノ水 向上直下ミアゲミオロス 濾聲ミブルヒ 身毛彌竪イヨダチ 所為シワザ 作業

光満 旦千タンセン シナく 品科 少間シバシ 少日カ程 華戸シバノアミド 我家ヲ 帷裳シタスダレ 車ノ 瀼ジヤウ 々 波ノ ヒラケアフ 又 ミヅナガル 舵シカト 仔細

怱襟シノヽモノオモフ 竽シヤウノフエ 樂器 深山 書テモ大山ト書テモミヤマトヨム大字ヲミトヨムハ 関ミツく 肝々

殊勝ヒナラズ 艶 ○取次シドロモドロ 筋斗 貴ミ イフ詞 源氏梅枝ニシドロモドロニ愛敬ツキ 逢計 頃尅キヤウコク 沙焉

山の櫻木ヒモロギ 杖ヲ切ル 薦胙ヒモロギ 胙ヒモロギ サイハヒ ムクフル 袘ヒモロギ タマモノ クラヰ 禷ヒモロキ イケヱノマツリ トノフ 韓ヒ ヒメガキ 混空ヒタズラ 混一向ヒタスラ 只管

○皇ヒツギ ○神籬ヒモロギ 混空ヒタフル 永 潛然ヒソカ 痺ヒルム 日來ヒゴロ

物忩ブツソウ モノサハガシ 才良モノイウ 身屋モヤ 家也 潺サヽセン ナガル セヾラク セヾラギ 洐カウ セヾラギ 淺エンロクハン セヾラク ナガル

蜜ミツ ヒソカ シヅカ トミム メカシ ヤスシ チカシ キビシ 密ビツ ヒソカ メカシ ミツ 煩襟サイオモヒ 襟モノウク モノオモヒ 憂モノウ

潺サンセン ナガルヽ セヾラク セヾラギ 洐カウ セヾラギ 淺エンロクハン セヾラク ナガルヽ 爲方センカタ ナシ 元本素許 もと モト スナホ ヒロシ

淳朴スナホ 質朴 直 洒掃サイソウ 日々 いかいるす なんとなる

不意スゾロ 又ソゾロ 頃哉スハヤ 堪

雉堞メカキ ヒメカキ 整頓トヽノホリ 臺宇メカトノヤ 玲瓏テリヒヤキ 日本書紀 臣鬼キヨ ゑイ おほいなる

みちのわく 陸奥 みちのく えのねと 乳母 えのと はゝおりめ 促織 つぎ 續 つゞる 綴 つゞりさんも日 古言梯ニ出

かならび かハ假令ちりん びハ不在こし かへりうつ 擲倒 雜藝こし

わなゝく 新撰字鏡ニ慄字ヲ和奈ゝ久又平乃かヽ乃久

○ゆきこゝふ 往こゝ又 ゆきこゝひちげきちども云

○ゆふ 木綿を訓 男將して由不と云り後ハ穀乃木の皮ぬて造る
ゆふハもと野蠶之語のもとハ眉生あるをさも由不といへるハ眉生の糸綿ハ似しれハなり

佐ノ(キツ) 佐(ヤスラカ・イサヽシ) ○端正(キラく・ウルハシ) 雲母(キラ) 野楂ニキラくニ云 綺羅(キラ) 綺羅ハ衣物ナ 作業(シワザ) 所爲

○ゆはず ゆみはず 弭 所縁(ユカリ) 由縁(ユカリ) 動(ユルグ) 夕榮(ユフバエ) ○ゆふ

○感(メデ) 閑雅(ミヤビヤカ) 窈窕(ミヤビヤカ) 向上(ミアゲ) 直下(ミオロス) 嬰子(ミドリコ) 身ノ毛彌立又豎ツ 盧聲(ミブルヒ) 身毛彌豎(ミノケヨダチ) 腰(シカト)

三津乃水 御溝水(ミカハミヅ) 且千(シンセン・シナく) 品科(シナく) 少間(シバシ) 少日(シバシ) 且ガ程 華戸(シバノアミド) 我家ヲ 帷裳(シタスダレ) 車ノ 瀼々(ジヤワく) 波ノ ヒラケアフ又 ツエオシミ ミヅナガル 仔細(シサイ)

光彌(ミツシ) 忍襟(シノニモノオモフ) 竽(シヤウノフエ) 樂器 ｢深山ト書テモ大山ト書テモヤマトヨム大字ヲミトヨムハ｣ 閑(シヅ)

殊勝(ユヽシ) 艶(ヨシ) ○取次(シドロ) 筋斗(モドロ) 貴ミ(イフ) 詞ニ 源氏梅枝ニシドロモドロニ愛敬ツキ 進討(シンタウ) 頃刻(シバシ) 沙焉(シバシ)

山の櫻木を杖に切りて(シモト) 薦胙(ヒモロギ) 胙(ヒモロギ・サイハヒ・ムクフル) 脤(シン・ヒモロギ・イケミノマツリ・トシノフ) 轉(ヒ) 犀(ヒメガキ)

○皇(ヒツギ) 混空(ヒタブル) 永(ヒタ) 潜然(ヒソカ) 瘻(ヒルム) 日來(ヒゴロ) 混空(ヒタズラ) 混一(ヒタスラ) 向(ヒタ) 只管(ヒタスラ)

○神籬(ヒモロギ) 才良(モノノクモ) 物忩(ブツソウ・モノサハガシ) 身屋(モヤ) 家也 瀉(サンセン・ナガルヽ・セゾラク・セゾラギ) 洐(カワ・セゾ) 淺(エンノクン・セゾラク・ナガルヽ)

蜜(ミツ・ヒソカ・シヅカ) 三日(ミカ) 密(ビツ・シヅカ・ミツ・ヒソカ) 煩襟(サイキモ) 襟(モノウン・モノオモヒ) 鬱(モノ)

(メカシ・ヤスシ・チカシ・キビシ)

瀉(サンセン・ナガルヽ・セゾラク・セゾラギ) 洐(カワ・セゾラギ) 淺(エンノクン・セゾラク・ナガルヽ) 爲方ナシ(センカタナシ) もこ 元本素許(シヽヽ・モト・スナホ)

不意(スヾロ) 又ソゾロニ 不覺ニ 又坐 淳朴(スナホ) 噴哉(スハヤ) 質朴(日) 直(日) 洒掃(サイソウ) 日々

ソツツ ススス サラス
元本許素 時(シドゾラ・トキ) 窟(コツクツ・アナ・ホリ・アグラ) 索(サクソ・ノツルモ・サクムノトツノフ) いかいぬ 日ゝあいなんこなる 踞魁(キヨ・クワイ) おほいなる 燃(テンチン・ヒネル) ほしがる 欲 病(ヤマヒ) 興 學

みちのく みちのく 陸奥
えのたと えのと 乳母
はこおりめ 促織
つきつる 續
綴
つゞりさんも日 古言梯ニ出
かへりうつ 擲倒 同雜藝ニ
かならび かハ假令ちなん びハ不在ニ
わなゝく 新撰字鏡ニ牲字ヲ和奈ゝ久又平乃乃久

○ゆきつゝふ 往ヽ反ふ ゆきつひゝきちげきちども云

佶 キツ ノ 佶 ヤスラカ イサヽシ サカンニ ○端正 キラく 雲母 キラ 野植ニ キラくニ 綺羅ハ衣物ノ キラく

所縁 ユカリ 由縁 ユカリ 動 エルゾ 夕 ユフばへ 榮

○ゆふ 木綿を訓 ゆふハもと野蠶之語のもとハ眉生ありてを
男谷しし（て）由不と云り 後ハ穀乃木の皮もて造る
さも由不といへるハ眉生の糸綿に似されバなり

○ゆはじめみに 弭 閑雅 ミヤビヤカ 窈窕 ミヤビヤカ 向上 ミアゲ 直下 ミオロス 嬰子 ミドリコ 身毛弥立 又 豎 ヨダツ 濾 リヨ 聲 ミブルヒ 身毛彌竪 イヨダチ 所為 作業 シワザ

○感 メデ 溝乃水 ミゾ 且千 タンセン シナく 品科 少間 シバシ 華戸 シバノアミド 我家ヲ 帷 シメ 裳 スダレ 車ノ トバリ モスソ 瀼々 ジヤウく 波ノ ヒラケアフ 又 ツユオヽシ ミヅナガル 腱 シカト 仔細 ミヅク

○ 忍襟 シノニモノオモフ 少日カ程 シバラク 竽 ケシ シヤウノフエ 樂器 「深山ト書テモ大山ト書テモミヤマトヨム大字ヲミトヨムハ 貴ミ イフ詞ゾ 達計 アヤボシ

山の桜木と 杖ゐ切んと シモト 殊勝 ユヽシ 艶 ニホヒ 曰 ○取次 シドロ モドロ 筋斗 源氏梅枝ニシドロモドロニ愛敬ツキ 頃尅 キヤウコク シバラク 沙焉

○皇 ヒツギ 薦 ヒモロギ 胙 ヒモロギ サイハヒ ムクフル 胙 タマヱモノ クラヰ 祳 ヒモロギ イケニヘノマツリ トシノフ 韠 ヒメガキ 混空 ヒタズラ 混一向 ヒタスラ 曰 只管 ヒタスラ

○神籬 ヒモロギ 混空 ヒタフル 永 曰 潛然 ヒソカ 瘷 ヒルム 日来 ヒゴロ

才良 モノクサシ 物忩 ブツソウ モノサハガシ 身屋 モヤ 家也 潺 サンセン ナガル セヾラク セヾラギ 洐 カウ セヾラギ 湲 エンクハン セヾラク ナガル

寢 ミツ ヒソカ シヅカ ミトリム メカシ ヤスシ チカシ キビシ 密 ビツ タカシ ミツ ヒソカ 煩 襟 モノオモヒ 襟 モノウシ モノオモヒ 憂 モノウ

潺 サンセン ナガル セヾラク セヾラギ 洐 カウ セヾラギ 湲 エンクハン セヾラク ナガル
為方ナシ センカタ 寥々 スゴく 荒 スサム 寸斗 ズダく スンド 切
もと 元 本 素 許 モト シロシ スナホ

みちのく 陸奥
めのと 乳母
はたおりめ 虫こ 促織
つぎ 續
つゞる 綴 つゞるに上ノ續より出
つゞりさせも同 古言様に出
かならび かハ假令ちヽん ならびハ不在こ
かへりうつ 擲倒 囲 雑藝こ
わなゝく 新撰字鏡ニ 惶字ヲ 和奈ゝ久 ワナゝク 又 平乃ゝ久 ヨノゝク

詞の八衢　卆

○しづる　散木奇歌集に、雲をおもみしづれるみさの入江なれやけちるに言に　しづれ　おつちり
同長哥に　くずるみちたへを白雲の雲ゐしづれと詠やかへし　丹後守為忠家百首に　仲正　絹まぎ記
松かうちを気ふかき雲は見む日かげをしこば　しづれもぞ得るなどあり　又詞語抄に　杉もや方の
しづり　此言の心そでなれやおもひのかぶに　ぬきぬをおもふぞ　四条大納言家松は木に降しみる
雲ゐおつるをいふなりとあり　これも同し詞ときこえ[略]　しづりとては四段の活ば
かくも活く詞にや　おくに見あらし　上巳

○やつまき上三二　を活く　蜻蛉日記三に　白みおもひしるかけるやうにそおほゆるとあるのをおもてもるかん
を活きなど活きかうことみえたり

○やちまき上二十三ウ　わ一のやぐ　枕草紙に　わかやぎとあり

○同　をとめく　同　をとめけるとあり

○やちまき下三ウ　わがぬる　大和物語に　かいまかはてけるみちら　又枕草紙にてわかきうらんなどいへり

○同下十四ウ　よろぼふ　源氏夕顔に　うちよろぼひとあり

○同下九七ウ　かいまむ　伊勢物語に　かいまみてけり　大和物語に　かいなみたなどあり

○同下九七ウ　しほじむ　源氏明石にこうらしほじむ力とたちて　又蓬生に　しほじみかはらましかば
又々須磨に　しほじみぬし　浜松中納言物語にこのかたにしほじみたる人となどみえたり

○同下四十二　かなぐる　源氏帚木に　ひきかなぐりめなどあり

○同　くねる　古今集序に　女郎花の一時をくねるにもうし　又蜻蛉日記にもそこにはくねりて
かぎろなどあり

詞の玉緒　五廿八

○まく　見まく　ゆきまく　なきまく　又知くを略きて　まくといへり　見まほし　きゝまほしのるかひし
五百首　玉緒　かけまくも　かしこくぞ　これはいみしき云がごとし

○うきぬしづみぬ
堀川後百首に　…るおつるふ岩根に沈きて　うきぬしづみぬ　力をぞうる
此ぬはつねにはよくいふ辞なれは　古へおふさ文字と雅言にはいふなるべし　又此格にいふ…も同じ

宗鑑 句九 百有

○まうきみに　うとんげ

青衣　優曇華

○ちゝこひさる此の世　○人さそことは多くせい　○さへ懶さんげ

白鷺ト云ヿ印云カ　仏経ノイレ　懶懺　懺悔

恩ヲ似ヘ　恩ハ昔ノ恩ノヿ　○植ヲ沢ヤハ　兼光

　木岑乳母　中三位頼兼送カ子　兼平也兼平カ兄ニ

　巴ハ木曾ノ乳母子ナリ　妻ニテ　清水冠者ヨハ母　植口ノ兼平等ノ妹也

○こうやぎ若葉

○小前と立てあり寄　僧

　糸云ト　云ルハ紫苑ニ云ル　陶朱公ナ

偽も此　たまれはうれをことゝし　○抱昔れちゝにほて

説　其形　固

松井山ト云ふ　花見

源氏物語　みなみの　わかむすまふてもゆかぬれ神らぬ斬ゝ人ゝゆくさや

玉鬘

　法月三六帖　おけるなもの紙　○あるひはこがらしや　　蕉

　○あまちをとる孫は和歌の　　冠辞

　○かく河

　○阿しひきは山ノ冠辞

○妹川のへとよみける

　此流ノ字アヤシ

　○物いふくは法のゑを紙ふ蚤すりほゝそれ　　紫水沙戸

○いろ好をちを

　理　理ノ字ハ玉ノスチ也　玉ニスヂアリ　則道

　高号

○けつまつげ

　寝衣ノ字カ

○おさいの床　朝寝にいハ眠

　青衣

　○をまた井立手見て取はなは　文ふ解何し

　○いさや水を掬　　○汲やとめ汲ゃ菜

　浄備ハすはノ衰ニテモアル故

信　安濃郡　○焼藻塩　藻塩やく　○蜩衣この

アコギ

　いさゝ汲し　累波カ　ちゝ大　古き年

　○漁を　○信也田の海ヘ　○畑麦　○百岳右　阿ナガ

　かち去とまくりし　繚（レウ）　○安濃海のナゲ　○細解て

　　機ト　燕トシ　兼

　姫たちの人はあはれてひまつにはよ枝ハたるとこしの擁

　　とトつト通フ故ニ可キ遣も

て雨に云ふ

でよ糸手でハ八丸そもゆすで月くるまですで

　　同ひさもやで

これぬもちを神のかひ　つゆと

からひかの

らぬ好を添えてちのかぶる　いりけり

　　こまれら

さあ僧をいろる僕を神とさや

留川

○舟ニなりて ○名人々かとやされて集 ○あんぼう[illegible] ○こうく疾之

勾引 ○此比七七[illegible]を 初首ニ集メり 仮名ハ違へり

○ちやごころ[illegible]し

○諸芸の京

[illegible]

○路をとらつく 潜 ○花かうきにれ 憂 ○まさねの愛

○かづけ[illegible]が 被 ○[illegible]くすそをとりけそ 祇 ○冠の巾子

○たそくれ月も [illegible] ○山[illegible]ひ 又山あね[illegible]

[illegible]

[illegible]如五月幟

修[illegible]ん 醞酒 美酒ヲ云

花も[illegible]をそゝぎ 潜 [illegible]をそゝぐに 限ル字こ 酒 澍ニット(ソ)テ雨ニ云こ

~~[illegible]~~

潜 安濃郡この焼藻 藻塩やく 累 波か[illegible] ○[illegible]衣この

[illegible]はし [illegible] [illegible]年も

○漁を ○信七田の浦の[illegible]麦 ○[illegible]名 ○紐解て

世の[illegible]とまようりし 繚 ○安濃海の[illegible] [illegible]ニ想ト[illegible]

[illegible]

とトつト通フ故ニ [illegible]

今れ
さそん 如五月蝿
騒ぐ
修さん 醞酒（コシザケ）ニ 美酒ヲ云
花し涙をそそぎ。
潸（セン） 涕をそそぐに限ル字ニ
洒 澍 ニッドモ 雨ニ云ニ

阿漕 安濃（アコギ）郡ニの焼藻 藻塩やく 累 波か ... 衣ニの
あこぎ 漁を 伊勢の海の 繰 ... 安濃海の ... 幾度
とつ ト 通フ 故ニ 可キ ...

右京大夫

○あの尼ぞ　尼ノ名ト云カ如キ歟　然ラハ此ノ字ヲ除キ可シ　清少納言ハサモアリヌベシ

清書ヨリ先キニ…　行書

○少納言信西　侍学人之

○そばつくひ　○ひぢ肘　○朧清　アリ　○北京ハ…

○せうかうの　○こそりつ　○早鞠

様　集

敦親トかう

○いそぐ　…　流ルヽ

○思アリ　…

○佛流…　佛…　佛告

場面　○セウレウハ唐ハ…

○光るんとれこそ　…

○云ふさに透る

○いつく　嘶

○のつこ　祝詞

○きねがる　習

○鳥居ハ仮字ニ　神門　和名抄

稽首ノ　宜称トモ云

○なるとく

○こくそまの　○たいらぬ

きなる絹紗　果繋

○三途のせぞ　三途川の流セ　試みし

○碁子

枉り御

○…九道…

…四八紙…

後見

○中宮　高倉院中宮　法國女

○れをとつ…

○こいの山　三所…

○道迷の　…

○彭祖ハ八百年…

○はのもろ　藻屑

○浅をそぞ　潜

○船をふうもる　深

松花

○よう…かく　藤絵

○ひとらん

○……

○三尾谷

○よじほ

○溢汐ハ…

○やしまにいろや月ろの

○八汐の…

○およぐ

○水ろのおしき

海人

定家

○あさまず…

○心をみふし

○ミ…　駕

右端（隣頁）：

たそや…

○山ふひ　又山あお

前前太平記巻之十九 三紙

賀茂住吉阿蘇(アソ)三社ニ限リ古來(コライ)神主(カンヌシ)ト申習(ナラ)ハシ餘(ヨ)ハ神主ト称(ショウ)スル事叶ハズ

延喜帝ノ御時肥後ノ國阿蘇社ノ大宮司友成上洛シテ訴訟ニ出タリ 取意

神主ノ称号之事 付

相老

ゑびす ○松根ふよ川て腰をナてれば 磨

○いくゐきぬらん 幾日来 ○の爵子 作比井 佐也 鳴尾 ひいぜりと腹七ろを汁雲ろ卯 ○あさか部 ○たまも藻 玉藻 ○こんかいなみ

倚松根 氏詩(全ク異ナシ) 楠 腕

田村 ○宮つさい ○老ん志んといへるは門 ○さつ海乃川よよ里 ○さき湯の伝 さき楊(ヤナギ)まで ○芦垣 かさの

前前太平記ニ六 延鎮アリ

○矢をさげて 番げて ○ちかうこといゆるし逆旅 千方 ○たる人をぬ 奴

江に ○車に ふわに出るが如し 二輪 ○うどのれ芦の 庄の内 朗 ○ 宮粟田(アハ)ノ別業ニ於テ薨逝ス 行年五十四歳

○ ちすさと ○患にさそれ 号 号又 坊又 源 千山

班女の ○いろでれもさ乃下津くじ 鉄 ○けいろうの山 績子 巻ずいそぶ乃森みちみちさぶさのふふ色乃ふるひと 陵後ニ三 ことたれば ととたえぬ きかへる山 ちの ちのこゑ さぞつ

雑 ○書翁乃郡 都留 瞿 磐手 杜 躑躅 ○いをそ沼 石佐和こ ○為業哉 ○ゆうしとくやう ○いとなむわさの 遊子

○つ夜まつつじをつして 晒 日暮て 残る ○ぬしぼけ ○ものうきよ 麻 前ニ説アリ 炬

○ちめろ松明 濕 ○かづきよせてくるよ 潜 没して 絞してアリ ○小鮎さだしるをぶ雑魚にかぶみて ○志まつさておろしゆく鵜

濁 激浙 ○ほうひれ詞 法 辟 ○節の経 ○聖教乃こめいふて 都名

きよむく あがれこ

万葉 まされば わぎへ 鮎子さばしれ 君待がてふ うるまくたしれ わも 流れや やぶれて 鮎ごさばしる 仲正

都見物皇国の[illegible] [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

法

譬

都名所

[illegible]やれぶれして紙ごさがしろ　仲正

咳（ハウ）臆（シン）ト祝言（シウゲン）トノ聲ノ差別之事
（ニガリビ チイサシ ヤヱイビト）

船子シ 鹿子（カコ）トイフ事

堀通

わかき目にありかにやめもさ了奴大ならにありとはしをば思ふへし せハ

本居宣長カ玉勝間ニ云
○高砂住の江乃松も相ひおひ乃やうにおぼえ
○キツウ年ガヨツテハ 高砂ヤ住ノ江ノアノ久シイ松ト 相追ナヤウニ
思ハレタリスル時ニモヨミ
あひおひを、今の俗語にもいふことにて相追こと・そいもと・
ゐるびいふ追と追ひとるをいより出る云まことにいくなれ
お後も形く・大かた同じほどあはことふいへり

相老 高砂 ○松根によりて腰をすれば ○いくぬきぬん ○乃爵ヨ
田村 ○宮つかさ ○ぎんきんといへるは ○さつ河乃川よよ
○ちかごとにいましさ逆に ○矢をさげて ○たぶ奴今こぬ
千方 前前太平記ニ延鎮トアリ
江口 ○車わにふわに出るが如し ○むちすさと ○患にてされ
班女の ○いちでわもと乃下津にじ
羽衣 ○羽衣わいとかなむわさの ○ゆうしてくやう
都 留 ○まが爵乃卿 ○ゐをもて泊
石佐和こ ○ものうきよ ○ち松まつとおろしひ羽
○つら夜もかしてをつして ○婦しばけ
○かづきよせてくるよ ○小紙さだしるをど難来にかぶみて
○ほうひわ詞 ○聖教乃ことめいふて
法 都名

宮西米田ノ別業ニ於テ逝ス 行年五十四歳

○いくゐきめりん ○乃爵ヨ 鈴井 佐也 ○あさかゝ 徳勤院 ○たまも 玉葉 ○こえかいなミハ

相老 ろ 砂 ○幸くるをめ 鵜日来 鳴尾 ひいやりと腹ちろを汁 雷ル部

○松根ふよ川て梅をすてれしば 磨 倚松根 氏詩金ノ喜し 挿腕

・田村 ○宮つさい ○ぎんたへんといへるは门 ○吉陽の法 吉楊 ヤナギ 意て ○ゆうかさの 芦垣

○ちかくさとてし逆は 千方 ○たが奴人をぬ 前前太平記ニハ延鎮アリ ○たつ流乃川よよ里 大来リうかちくくわくし

○先をもけて 番げて ○みどの北方の 床の犯 ○宮 西米田(アカハ)ノ別業ニ於テ薨逝ス 行年五十四歳

江 に ○車は ふわに出るが如し 新後 ○けいろうの山 ○ムちすさと ○患にさるれ 号 ○号 号又 坊又遠

班女の弟れ ふる二輪 ○いちでれもう乃下律ほし 雛 杜 挿津 蹶躍 読手 ゆふすいまでの森おきみちいまふハ志のふる色乃ふるねとばーま 読後拾三 古今集 ともなれば時とたえぬ(ぎかへる山ちがのはハさぞつよからん

云の玉 ○ 鶏 飼 磐 手 ○やり虫子 ○くるの郡 耀 都留 ○いちを得 泊 石佐和し ○為業 哉 ○ゆうしそくやう ○いとなひわさの

○つ夜きりかつぎをつけて 晴夜 日暮て 暁ケて 残み ○婦しばけ 罧 前ニ說アリ 炬 タイマツ ものうさよ ○ちまつをおろし ひく鶏 遊子

○ちめる松明 濁 流 かつぎ 没の 綾ーて アト ○かつきよせてくるよ 潜 ○小紡さだしるさ 隠紡にかふみて 万葉 去れ 紡子さびしれ わぎ つぎ 綾とある川とふる うみをくたれ 君待かて へ ほ れ おも流 やしや 紡ごさびしる 仲心

くさ 瀬ー渡 せゞ 瀬ー渡 ○竹 御の経 ○聖教乃とめいふて 都名

偕云 旨 瀉 浚 泝 ○はうらみれ詞 法 辟 ちよよく あがれこ

[?]意(シン)ト呪(シウ)言(ゲン)トノ差別之事

和 かき曇かはやめも亡了奴大ならにありとはしるぞ思ふへしせハ

星

嗟（ワウ）臆（シン）ト祝（シウ）言（ゲン）トノ聲ノ差別之事

ニガリビ　チイサシ　ヤマイビト

・高砂　本居宣長カ書読ニ云

○キツウ年ガヨツテハ　思ハレタリスル時ニモヨミ

高砂や住ノ江アノ久シイ松ト　相追（オヒ）ナヤウニ

高砂住の江乃松もあひおひ乃やうにおぼえ

あひおひとは今の俗語にもいふことにて相追（オヒ）。そのもと

るがひに追（オヒ）と追（オヒ）まじとよりおこる云まていくなれ

お後も形く。大かた同じほどにほとふいへり

船子シ　鹿（カ）子（コ）トイフ事

塚道

和 かき日云カにやめもよ了奴大ならにありこそはしまだ思ふへしせハ

星

相老 高砂 ○いくぬきぬらん 翁日来 ○乃 爵ま

○松根ふよ川て擦をすれしば 鳴尾 ひいせりと腹七ろ 磨

○宮つさい ○老ん志んといへるは门 ○さき ○たすもの 玉藻 ○こそかいなまハ 椅松根 腕

田村 ○矢さとをもげて番げて ○ちかきと以こし半退 千方 奴

○吉湯の涯 吉楊 ○さつ涯乃川よよ望 ○いかさの 芦垣

前前太平記ニハ延鎮トアリ

○ますら おが 丈夫 を

木津川乃本ハ名ハ泉川

○普天下 六十余州ノ濱ト有

江に ○車れふわに出るの如し ○ひの ○うぐの枕の床の間

斑女 二輪 ○いかでおもう乃下津くし 磐手 杜

○さとしる 牡鹿 ○ふ木せぬさん 千ふト云

○仏ちすさこ ○恵にてんれ 号又 坊又遮

読手 お又すいまでの森おみちゆ義ふハ志のふるさとを残し

鶏飼 ○さめ乃君 ○都留 躑躅 石佐和こ 鳥紫哉

○つ夜まつしをつして 松明 瀰 ○いをを河の ○ゆうしてくやう ○いとなひわさの

○ちまつたおろし ○婦しばけ ○ものうさよ 遊子 罧 炬

瀑渡 ○かつきしよさてくさよ 潛 ○小舶さたしるをつ雅未にかぶきみて

○ほうひれ詞 法 ○竹御の経 ○聖教乃こめいふて 都名

万葉 つるされバわぎへ帰とれハとふも うみ多くたいれおしも流れや 船子さかしれ君待かてふ やれくれて舩ごさかしろ 仲正

前前太平記巻九

弘仁二年夏五月

前前太平記巻九

弘仁二年夏五月大納言右大將正三位坂上大宿祢田村麻呂粟田ノ別業ニ於テ薨逝ス行年五十四歳

前々太平記巻之九
宝亀九年ノ首夏釋ノ延鎮 或ハ賢心 報恩ト

一 延鎮邊ニアルトキハ岩ノ傍ニ大ナル鹿死シテアリ扨ハ此枝樹ヲ
抜石ヲ穿チタル事ハ大将ノ祈誓ニ応ゼズ此所ノ所為ナリト察シ
則坂ノ傍ニ塚ヲ築テコレヲ葬リ鹿間塚トゾ名付ケル
其後偶田村麿ニ遊猟ニテ此山ニ入

田村ノ謡ニイ 前前太平記巻之九 往見
延暦二十六年ヲ大同ト改元アル 六下

雑波
兼平
○唯今都に入向仕候　還向歟　○凪カザナギ
○花乃盛ハおほさゞ紀州　大鵜鶴　乃像　寵愛
○いつくしみ仁恵慈　諫鼓苔深悪
○眼睛を破り　晴歟　○三塔　東塔西塔横川謂之三塔
○峯にハちやちふ乃梢をちふべ　八古　耶　○紫舟乃志むくも　数
○くそうげん　自詰　○鐙ふんばり　踏張
千手
○それハやう望ぶちかりつとにて
○ふらをり乃ま人をうくる
晴 メダマ ヒトミ
○き婦ふ稀しも　擽婦　廣利トアリ　縹紲
○おけいを生しちも辛尓く角ハかつほく
約義ふ狩　入野のそき
○るさうゝさ　敍行ぐが
○うちつけに
○宏のうけぢ　礒道
○花非をもらく　征
○まつり　倦
老松　虎溪
○おい肉もゆこしも猪望なき　高麗
○年ぬもも望乃松ぬ戸ふ
○朧月松閣乃中に映し　朧月　松柏歟　○そつれバ　慶
○竹竿乃もゆじにたてまり　透
○郷音たちる車なし　断
斷ハゆるこ　ゆるとハ云ずれバ不叶　たゞふると去ときハ倒乃ると
頼政
○まち乃里橋ぬ気色　○蒙求
○皆火盛乃證きて　○あじろ　網代
○ゆハずをとらせ　○行人征馬
遠　弾
たぬ花　矯乱
楢乃小島が崎ハ大和乃飛鳥の楢の島山と云所と　玉葛ニモアリ
○さつくと
そこひねき倒せハさうく山川の一

○井筒　眞實男カ
○筐乃ちふ跡　○いとまめける　最婿
○そこひろく　涯
うちも　髻髪　童の髪を束ねし
○あぼめる花の　凋
○蓬　宮
○千年のさため
○面ぶと
三井寺　いにおする　直衣
○ぎんくとしていんをいつ　雲　衢　出
○後句ハ対句アルベシ
○天枝　冉々
○愛別離苦乃思ひ　離苦
○星ハ帰ふるんぞろく　拱
○越を辞としたんまいり　白樂天
○もつのしやこをさやぐ
○ちつき衆ん乃ちゑおち　楊貴妃
○寅し盛　　○軍陣づよ
○まぼろし　紹幻
○宮殿だんく　盤々
○荘厳ぎゝとして　巍々
○寂きたくぬる　寂寞
○かまいろき乃　太液
○いつ梲ちあちやうぬもしろんとちゝび
○ぬふくらくもんも　普陀落山
○もろちへぬ　諸白髪
○ちもんふ掃る月氣
○ちゐ婦るせ
○おしうにぬる
帔　雲鬢　卯　融
推も
抑も前々太平記巻之十七往見

○楊貴妃　楊家の女なるによりて名を楊貴妃と云れ　楊玄琰カ女也

縲（ルイ）絏（セツ）

縲（ルイ）ハ黒キ索ナリ

絏ハ繫（ケン）也 カルナリ

クロキナハニテカラメラルヽ事

前太平記巻之十六下 九紙

光孝天皇仁和年中

濱名橋（ハマナノハシ）ハ天下ニ於テ比類ナキ長橋（チヤウケウ）其數量（スリヨウ）

（遠江國）

二百八十丈トカヤ尤（モツトモ）公（オホヤケ）ノ掛（カケ）初（ソム）ル鄙（ヒナ）ニ於テノ

是始（ハジメ）也

清

裟充
いろ茶　○猿ツガ

生
赤てろ
遍

○三界ハせはく　○一生をなし　○かれ方の末ばかりて　○やうでう

○そよ婦　永　又混空

○きとう滴ん乃汲　○愛欲乃ひち通　玄芝場

宋女

○ほめちらこだ

○雨いさうよう　草

○春ん　よ乃一唇　○をむら小家起て

通小町

小袖曽我

○正しくをほう　○中くぞくにを

やごろみあるば

竹生島

○ちゝつうまつり。○にほの海にほの浦　江州湖ナニ

朝長

○ほふちか乃宿　○玉文乃璃風

柏崎

○くらくち乃　○爲りぬ

志賀

○けふ円満　○功徳池

○水乃かし

○よひきいひぞうと　○刺

○うつほ舟

○よどら流まつ

○らくらいく　落々　磊々

○おてしなきいせする

○いかなるらん

大原御幸

○あふく花乃垣もいる山

○蘭やる香をたき重ふきん

防己

○をかう乃里

○うしほちれいひんそいをび

○をうらへ乃罪人

○をかごらゝ卯が

○あきちたら卯兄弟

○ふぶ色

垣

生小屋ノ悒憤二

誘引

○ふれくそ共

○いぶせく　妨嫌

○さゝまいりて

忠度

○月も宿こや乃池

熊野

○たちち母

○玉井

○柳條

○をいのかせへき

○ちほづるを乃翁羽

○まるふしかご滴乃さけき心

○きんをくづし

○猿もをちちばちたる

○ほうで見はみこを

○翔もこ乃ほ乃ちて王みことを

○わさづこ乃

塩土老

剱

鈎

滄海

清経

○三界は九にて はく ○一生を流し ○お剥方乃末代かぶらて ○やうでう

○底の水く漂ふ ○あちさあや

いろ紫 ○猿ツが ○をとふ婦屢 永 又混空

○生ゆう偽れ乃詞 慴慢

○愛欲の心乃ゆち通ふ玄道場

宋女

○はめちのこと ○はめ花帝 ○あん人乃唇

○をもらんで 小玄 起て

○雨いさうようり 草 葉かむちハようにあられえふ乃仮字こ

通小町

徒跣 跣

小袖曾我

○正しくもほう ○中くぞくにる

○やごろみあらバ

竹生島

○ちつうあり ○にほの海 にほの浦 ○野間内海

朝長

○北の かつらの茶 ○はふちか乃宿

○玉文乃瑞風

○せん洗

柏崎

○く跡後乃府 ○くどくち乃 ○回り ぬる

志賀

○花のかぶき ○やひ円満ち ○玄乃下 ○かちふでる舟

清のたま

○よひきいでう ○刺 ○うつほ舟 空 坑

○まどら流るる

○らくくらく 落々

○あておなきうせあぐ

○いかなるうつふ

大原御幸

○あらく雅乃垣 ○檀特山 ○采菜汲水 ○蘆やふ雅ゐては きるふどんぬ香を桃

○ぶつりあんとしおれ

○いえかきく

防己

○されうち里 ○うしほちのれいむん うむを ○をうらい乃罪人

艇

○をかう乃ら印が ○あきおち印兄弟 ○ふぶ色 ○きさまの川

梅枝

○きるふくほるふぶり けて ○あれ若にと云ふ 碧玉 翡翠

遊行柳

○柳條 わおぬ ○これのひま 情欲

忠度

○月も宿のるこや乃池

熊野

○たらちね 母といふべき

玉井

○ほうで見れおみこを ○扨もこ乃のこほ乃すそふ里ぬみこを

又鹿間塚

○ちほづる乃羽 ○まちふしかぶ海乃こけき心

○きんをくづし ○狩もとおちちばちたる ○わさづこ乃

底の水ぐ濘に　○あちさるや　呼元無又無端
し方の末哉かぐらて　鑑　考ヘテト云ヘき　○やうでう
○愛欲[illegible]乃[illegible]通玄之場
○をさらんか玄記て
通小町　からはじし　徒跣　跣ステシ　又赤足
○やごろみあらば　轂ヤゴロ　ハリエニ　又轚
○駁ハ子
○のふ子　深
○さこたんれハ　再誕
○みづくへ　○風色所子めぐり
○又おもいいれ　さんなど
○でしお形
○水乃かハ　柏ハ　見るべし
○らくらいく　落々　磊々
○などら流もつ　不行ヨド々
○もうらい乃罪人
○小ぶ色
妨嫌
○印南野　昆湯

清経　舟乃へさきに立あがり　舳へ梶カ　艫トモ梶ト云モ同シ
艫ロトモ　舳いさ艫いさト云テいさト云ニハ心ナカルヘシ　たゞ舳艫あるへし
譬バ日輪月輪などいふがごとし　輪ニハ心なし

中澤景子氏輯録ニ

○手飼虎　山猫　虎ト猫トハ大小

剛柔ハハルカニ殊ナリトイヘトモ其形相類スル了

ヨリ似タリトセハ我邦ノイニシヘ猫ヲ手ガヒノ虎ト

云ルヿ古今六帖ノ哥ニ

アサヂフノ小野ノシノ原イカナレバ手ガヒノ虎ノ

フシ所ナル

又源氏物語女三ノ宮ノクダリニ見エタリ

唐土ノ小説ニ虎ヲ山猫ト云ヿ西遊記第

十三回陥虎穴金星解厄ト云ル條ニ

伯欽道風是個山猫来了

云コヽロハ見ニ一隻ノ斑斕虎トアリ

形似タルヲモテ互ニ異名トスルヿ面白ク覚エタリ

○九尾狐ハモト瑞獣ニテ已ニ太平御覧ニ

山海経。竹書紀年。呂氏春秋。白虎通。

古今註。魏略。郭璞九尾狐賛等ヲ

引用セリ

問ニ云官妓ヲ九尾狐ト云ルヿ侯鯖録

ニ有官妓ノ声色ノタメニ蠱惑セラルヽヲ

狐ニ魅ケルニ喩ヘシナルベシ

巻之十七
確（カタシ） 寧 寧
寛平七年乙卯八月廿五日従一位左大臣源融公薨去寿八十三 嵯峨天皇第十二皇子
戻（モヂリ） 羽子ぢつく 松島の雄島

千秋云ク
くてぞめハ令式などにもみえて 纐纈こいへる是也
纐纈ヲキシトチデト訓リ
往昔纐纈ヲカウケチト 纐纈源五ト云シ人アリ

天智天皇ノ舊都滋賀ノ花園ニ一宇坊舎ヲ建立シ
滋賀城ノ花園ノ舊跡也トテ園城寺ト云天智天武
持統三代ノ産湯ニ此所ノ水ヲ汲シトテ三井寺トモ世ニ
名付シナリ

平泰時之式目ノ最初ニ云ク 三河後風土記ニ出ス
神者依人之敬増威
人者依神之徳副運

日本紀竟宴之哥
[illegible]

巻之十五
滋賀城ノ花園ノ舊跡也トテ園城寺ト云ヒ
天智天武持統三代ノ産湯ニ此所ノ水ヲ
汲シトテ三井寺トモ世ニ名付シナリ
天智天皇ノ舊都
同巻十七
寛平七年乙卯八月廿五日従一位左大臣源融公薨去寿八十三 嵯峨天皇第十二ノ
皇子母ハ正四位下大原金子ト号ス

嵯峨天皇 淳和天皇 仁明天皇 三代實録ト

三代ノ名明帝ニ世ニ豊ニ治セリ 後世ノ鏡ニトテ記シ留メシ

唇元三月十三日　光仁天皇御宇　千本松ニ於テ生　其弟子天慶三年[illegible]

天慶十一年中[illegible]

善光寺[illegible]　[illegible]

天ノ[illegible]　大日[illegible]　飾磨

浦島ノ子[illegible]　[illegible]死[illegible]

淳和天皇　天長二年ノ事

[illegible]

五六・七丁

○るり乃瓦をちりばめたるくわうもんあり 瑠璃

○ぎんちきゝのやかた 銀

○ゆづりは乃木あり 湯津 桂

○ちゑのしんでたる姿

○たのむきひめおきとゝのほり

○たのむのやてりかゝやく

○いかづちのかしづき 傳

○てうちん 釣

○大こふ、どうじいやてをふのせ

○金銀まきつめ

○扶をとく

○まつりごとの君

○唯一空乃こと

○ひざをくみて

○かごをはむ

○一葉一

○ひらめかして

○ゆいやと引

○ひきうかし

○紅河の流

○すべての花乃いとものにしき

○わき

拾遺和歌集

みちのくのなとりのこほりくろつかといふ所に重之がいもうとあまたありとききていひつかはしける　兼盛

みちのくのあだちのはらのくろつかにおにこもれりときくはまことか

同

さがのゐんにかよふ法師に名をもち侍るを おほぢけれとも歳いかまでとうとくきこえけれは　八條乃おほいきみ

ちよふる名乃ことぞ嵯峨乃山といひける君は峯やあるらん

○鴫

○枕そばだてゝ

君子道者三 論語 仁者不憂 知者不惑 勇者不懼

○矢さきび乃音

○つるおちやし

○かとり乃衣

○いとをいした

[illegible]

○るり乃瓦をちりばめたるくわうもんあり　瑠璃
○ぎんちきやうやた　銀　鋪鉛

古言拾遺ニ出
○ゆづりはの木あり　湯津　桂
○てまださえに　○ちをさえ　山姥のちをさきもと云
○るのびふまんしお　連枝
○ちかきさまさるに姿　○かずいろ　父　母
○たのどのやてりかやた　○たのしきひめおたとりの
○ばいきかしづき　傳　冊傳
○てうちん　釣針
○大まふどうじいやてをと　乗
○金銀まんまい　銀　又椀　盤
○かをば絶　鹿　杖　又　獣　又　横首杖
○まうと乃君　容果紀　眞
○兄弟字を日本紀ニ
○挟をとし　杖
○ろざはふ　坐　闘
○かします　喧嘩
○いく花の　生
杜若
○ぎうこつ　唐

安達原
斗藪
○はさけめ風
○いとげ乃車　繰　茸
○まなこくらみて　眼　眩　眊
○ほうちやうし　胞　脹
○かたぶきあまた
○をたくにかけて　御産
○いろそでかへし　繫　縛
○ゆふづくひ　○あさくく　夕　附　日
○一子をおほし乃そちから
○いちふを中てい
○そらたきもちり　暗　薫
○おとらひ
○かとり乃衣　縑
西行桜
○山乃かひよる乃へし　峡
○あらさくら乃　可惜
○みをむしふ　堰
○さんらんたり　粲　爛
○つるおやし　鶴　林
○あふさきまる
○おほとのにれけがし
○いとをいしたに　厭
○はよそどまりて
浮舟
○やよいはよし
呉服
○さうし乃字をひらかし　想　思
○枕そばだてて
連日に
八島
○矢さきび乃音
君子道者三　論語
子之謂　仁者不憂　知者不惑　勇者不懼

葛 ○祢こめて こめては ○ここには
味 ○もつかづかし 皆 番 常任

前前々之記 巻画 光仁天皇御製 [illegible]
當麻 ○五の字ハ五條ノ[illegible]
○さ[illegible]なぐれまおち ○ちょくかと

○海松 三十九
海人 ○房崎 ○廿心
○ま[illegible]前海人 ○まちょふで 参

[illegible] 匠 臨 ○○[illegible]
[illegible]る物 ○うむ 雲 珠 ○桜 ○[illegible]

宮ふ 感陽宮 ○○アうしやお玄井 威儀をたし
[illegible]能気を[illegible] [illegible]きんたんをとりて

轅門ハ 陣處ノ門 ○えんもんをとひて 轅 門 [illegible]解
○[illegible]乃[illegible]きんぎょ 曲

○[illegible]殺ハ 彭精好 ○嗅くかんく 緩
○勾引 カドハス ○[illegible]の

角田川 [illegible]の ○物[illegible] リウ

[illegible]
○[illegible]根[illegible]ハ[illegible]神祖也 ○[illegible] 四所[illegible]
○[illegible]潤 [illegible]大十[illegible] ○さ[illegible]の川[illegible] [illegible]川 名[illegible] ○時[illegible]行 トキカゼ 両人トモ明神[illegible]
[illegible] ○[illegible]八十の[illegible] 十[illegible] ○[illegible]の[illegible]ハ一[illegible] ミコト [illegible]
○二[illegible]の[illegible] ○[illegible]の[illegible] [illegible]名 [illegible] 大和ニアリ
○[illegible] 舊 新 ○我ハ[illegible] 助音[illegible]
○[illegible]し ○五條の[illegible]の[illegible]き ○[illegible]のとも[illegible]の [illegible]
○[illegible] ○[illegible]の[illegible]
○[illegible]ぬる 腕 ○[illegible] 須 ○[illegible]
[illegible] ○[illegible]の花子 ○[illegible]草 稲 [illegible]
○文[illegible] ○[illegible]人を[illegible] 人定
○あさかの沼 安積 奥州 郡名也 定
[illegible] ○武[illegible]達し[illegible] 不通 但シ武道ニ達 [illegible]

○いさうな[illegible] [illegible]十[illegible]
[illegible]ごうくしろトアリ 所有 アラユル
東岸居士 ○[illegible]乃[illegible]うく ○[illegible]きぬ乃さいく [illegible] 沈[illegible]
能 田 ○[illegible] ○[illegible]愛 ○あやめ 崇
○あ[illegible]や 観 ○神[illegible]乃[illegible] 南 備 三 室
[illegible] ○[illegible]のげんごう [illegible]
我 足柄山 ○[illegible]の[illegible] ○ほろとハ 母 衣 ○[illegible]お[illegible]て ○か[illegible]戸乃わき ○さい[illegible]やつ[illegible] 籠 八 欖
[illegible]ど[illegible]に[illegible]流す 之田川 [illegible]
○いもむし 蜉[illegible] 註 朝生暮死虫也
夕顔 ○ぎ[illegible]とに[illegible] ○[illegible]け花 ○[illegible]ん世も[illegible]の[illegible] ○風[illegible] 瞬 ○[illegible] 躊躇 ○わ[illegible]か[illegible] 綿 蠶
義 [illegible]花を[illegible]トアリ 来 不知[illegible] 黒白 解 脱 ○[illegible] 殊勝
雲林院 ○[illegible]けきしして ○雲乃上人[illegible]ほやのに ○[illegible]り乃衣[illegible] ○こうきでんの[illegible] 文艶
軽 漾 激 芬 芳 文艶[illegible] 弘 徽 殿

山陰 アヒ
○[illegible]風ハ[illegible]あさ[illegible]をよぎて[illegible]け よぐハ避る之[illegible]によぎるる[illegible]を曲道とあり
○[illegible]湍 セン[illegible]
西 梢 ○[illegible]山[illegible] 平 泉[illegible] 西[illegible]の川 漕 除 ○[illegible] 被ける衣ハ
[illegible] ○[illegible] 蹈 鞴 ○みちのくの 安積 アサカ 郡名也
花 筐 ○あぢ[illegible]乃 ○大[illegible]とべ乃[illegible] ○玉[illegible]乃都 ○くハ[illegible]
嬖妾 ヘイセフ 君寵ヲ得ル [illegible] 賜
○里をうとやた子
○[illegible]まで [illegible]不[illegible] 又 不[illegible]
建長七年ろ首 [illegible]風[illegible]まてく[illegible]風[illegible]
夫木[illegible] おきを[illegible]あめるこや[illegible]
この世[illegible]永き宝と成[illegible]仏[illegible]なり[illegible] 後京極

春雨抄

○ゐ堤根草ハ春ワ新祀こ　○よるとるの　四所[illegible]　○時風秀九行 トキカゼヒテニキ　両人トモ明神[illegible]

○世淵　こゝハ大十也　○さきの川つゝ　椊川名[illegible]

[illegible]

○二河の流　○拜ハ十の道ましし　十五　○[illegible]の[illegible]ハ一言主ノミコトト云

○[illegible]の依御　依御[illegible]名[illegible]　大和ニアリ　[illegible]

○[illegible]を[illegible]めて　新　○我ハ[illegible]　[illegible]助音[illegible]

○[illegible]くし　[illegible]ハ　○五條の[illegible]の[illegible]さき　○[illegible]の[illegible]えの[illegible]

○[illegible]　[illegible]　○[illegible]の橋

[illegible]

○はなきのぐ　陣　○[illegible]　腕　○[illegible]くハ　須

[illegible]

○あ[illegible]の[illegible]子　田[illegible]　秋　○[illegible]稲イ　○いまーしの[illegible]

[illegible]

○あさかの沼　安積　奥州郡名　○[illegible]けん[illegible]人定

○[illegible]　[illegible]

○武[illegible]達し[illegible]　不通　但シ武道ニ達[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

[illegible]文句

[illegible]ニ解し難し

[illegible]文句[illegible]

[illegible]分明

[illegible]

○[illegible]　[illegible]　[illegible]ハ[illegible]カルベシ

桜川

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○花のみるさ　水崇　歌

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○世[illegible]川[illegible]

菖　○[illegible]こめて　こめてハ[illegible]　○ここはこ　常住

珠　○[illegible]

前詞[illegible]記

巻面[illegible]

當麻　○五の[illegible]ハ五條ノ[illegible]

○さ[illegible]ちよくれまおら

海人　○房崎

○海松

○[illegible]

○まちよふて

[illegible]

○[illegible]

宮ふ

感陽宮

○うぎ

雲珠

[illegible]

○[illegible]

○えんもんをとひて

轅門ハ　陣屋門

○[illegible]

○唯くハんく

綾

扇田川

○[illegible]

○匂引　カドハス

○こおうお[illegible]　[illegible]法[illegible]

东[illegible]居士

○[illegible]

○[illegible]

所有　アラユル

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

舷田　○[illegible]

○あ[illegible]

○ほろとハ

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

註　朝生暮死[illegible]

○[illegible]

[illegible]

朱

雀

院ハ

宇多上皇[illegible]

[illegible]

葛 味 ○祢こめて こめてハ 数もこめこ ○こゝこはこ 常住

前前太平記 巻四 光仁天皇 当麻 ○五の云ハ五條ノ...

○自つからがし

○さ澗なかれまね

○そハぽさひ

○そみかくされ

○兄詔を賜

○さつく さくハ(家)

海人 ○房崎

○廿心かさ重ていゆく ○ちくかと 向上直下 ミアゲ ミオロス

○お主乃名をバくされまじ

前前太平記 巻十五 蘊民書札 ○蘊民将来 武塔天神 宿ヲ借リ玉フ

○海松

○勧さの前海人 ○飢まめをまとへ

○まちなふで ○侍まね宿月乃きぬをうふ宜路ナリくるま

○寂莫さ人多 ○やさの岸トアリ

宦ふし 感陽宮

○うぶ楼 (雲珠) ○満の名のきをきえ 小止

○あうしやお玄井 (威儀きなし)

○ちんたいまちうき 身躰

○臆して

○てんぜく 典獄

○えんもんをとひて 轅門 ○臨時

○ゑんしお乗肉

○大床乃こちやうに

轅門ハ 陣営ノ門

○茫乃まおきんぎよくハ 琴

○謀臣ハうそにあそ君臣ハをいじん乃けるそけ

○彩雲殿ハ 彩結好 粉衣幸

○嗟くかんく

○雷光乃ぐほちる 激

○露お白玉ざんにおちて 盤

角田川 ○物名 リウ

○匂引 カドハス

○垂の髪ゆか

○ぃゑうな破れ 渋法ナル也

東岸居士 ○流乃声ぞうく

能 田 ○深きをとめぐ ○経にまぎ

○あきしぐや

我 足柄山 ○不老の洞

夜討曽我 ○汝のげんざう

○ほろとハ

○ちおい

夕顔 ○ぎことにうし ○ゆけ花

雲林院 ○をいやうげきして

○あま風ハ

○林乃山ひらいづ

○花道 ○あぢ瀬乃

○大河

嬖妾 ヘイセフ 君寵ヲ得ル

○重ところまて

○星をうとやたる

建長七年ろ首 風ふきてく…
夫木を

こん世乙永き宝を成も…

後京極

○呪詛を厭ふ　○さつく（さつくハ索）

そみかくされ　蘇民書札（山伏ナリ）

蘇民将来　善　—　武塔天神　宿ヲ借リ玉フ

巨旦将来　悪

○お玉乃名をかくされまじ

斧おえくされ山ならや入りん人乃おとづれもせぬ　朽

○塔のもとゆえの（ごい助声）　絶

篠の庵の時めき

○すゞの橋

○いましのるやむ　忌

○えびらくハ　須

蓑笠稲す

とまり人定

武将達し　違　不通　武道に達し

○さゝ陰　やつだち

沉之

○わざかに

綿　鬣

戸乃わき

瞬　○躊躇

○ぎぬりの衣ぬ

○こうきでんのほとりの　弘徽殿廊

文艶

墨白

○みちのく　安積（アサカ）郡名

避る之　よぎるを曲道とあり

○くハれいまく

ほ乃都

後京極

朱雀院ハ郁（シワフク）臣（キヨ）　雲林院

宇多上皇乃御所之

新古今

阿漕も衆子朽なく作る

冨士たち彼　叢語ツキ司ニ圖兵意不分ラ明和改正本ニ出タルヲ以テ可正トス

○愚ひ俗ハをし夢みうら　占

○ちうこうが手棧出しちん絶うが滅

○名乃ちうもちりしゆしだ　下　虚　撥ばち　桴曰　太鼓のばちこ

猿猴　テノニジカキサル

犯狼　ナミノタチキシノカミ

皇帝

○死巖ふいうふうきうおんふ　（ふ巖ニカヲミ岩トアリ）　舊　恩

○ちんハ乃斜紅ふ　沈破　いかだう海棠

○八きちやうに　漸ル　帳カ　華　おたちにの力をえてゆりでのけいひみの假字違ヘリ

○ちばさ扮ふへ　暫待セン　約メ欲　低ニ無山

○ほぎろ乃山

山姥

○ひやくま山姥　百　万能　○ゆうちふ　○松のまつの松

○さふぬうを　佐　汾舟　塗

○けしふるかほせ

○まんのべうく　懸河　渺々

○海水ちやうく　瀼ジヤウ　○雅をかげ　桃

○ちりひぢ　塵泥　塵土泥ちし　古言様

○ちんぢやう乃山な　千丈

鬼一口ハ源氏物語詞

○ちうどり

○ふうさをふむだんせいふ　波濤　疊　萬水

○嶺松ぎざとして　巍々

○さにぬり乃

○をいふ怠んすゆ朽て　刑　鞭　蒲

○かんこ　諫鼓

○うちせとさせ

ささむハせそむこ

ゑびそさみんぶそさみも同し

○きぞら　枕ニツキテ云ル詞

百首

滝すやらう点ひちちひちの山もなをきの牛姑めん　赤塗

多数

高山も起微塵より

高山起微塵といひうるき山もふもとのちりひぢよりありうく

あり／もうかきるくおひのおまるとも言へり

○たびよの尋常

氷室

○大和国つぎおおり　闘鶏野　前ニアリ　○栗田郡

○ほぐや菓山乃枝ちげこ　積色次丸

皇圖永固　壮

○たまとせんとちる　他　矢

○おちそれ　おちのさ

○ゆるぐちすれ　動

○きみちつを　○我らお松ハ比叡山也　大内山ハ内裏ノ丁

善界

天の瓊矛　アマノトボコ

○折云約まちく　區

○よそもふこうえ　餘　導　超

○相をぎんせてといへ　現

○月そおくをうかちて　践　屋　窮

○をうはいとやまと　小水　小水ト云地名無シ是ハ別ニ叙之アリ

○ふりゆく未ぞ　舊

○人乃おとちやひ　喧　響

○風をそうをこして　破　窓　敷　仮忘トいてアリ　射字カ

芭蕉

○山崖寺乃ふるふ破きぬ　古

神魂　ぬまわる

○婦の記ふいら滴しまを

○ろさん乃　盧山

○害ふをそうかびい　晴

嘆ハラさんハさこ

庭のもせ　庭おもせ　山住のもぞ　トナリ

○もろくをあう　深　傷

○さん乃脆う乃弦　山峡

○志の了らのおもい

○わつかに　僅

○うかれたへハうかゝへしとて　衣云ニカ

○ちか車ふちょくら滴

○えぬゑらえいさ

百萬

○ちか車ふちょくら滴　七

○うれたハ四ふ女母舞る我鳥る本ハ

校衣　七

古車つむをはさし四つ

車　○まさかごん　菅薦

○ふりたるそぼし　舊

○うつしふう　うつしハ　うつふうこ

菅薦乃　スガゴモ

○牛羊經衢ふかゆり　街

○あさにゆし　青丹吉（冠辞）

○険きふありまろ　聚

ころかくれたけ人ぶ　倭人

本朝のこえてかしハの葉あわて

経陰　経険　ゆ

祝気慶。 ○頼朝義経不和乃よし　○さうくにをて　○風静まつて　いろ川　陶朱公ハ范蠡カ云

右近　○右近乃馬場おいおり乃日　○むらさき乃ゆきちめおちゆき　○みよしのおち錦

女郎花　○岩松そばつて山そこへ　○なめらか　○ちやちや 敷主　○恵心日まちなり　○ちぢんおもておちまど

○ちいさきはちられを出ぢ　○大地ハたむ

○いろねうきり　○瑞寄乃ちんぢ　○もぢり羽まちて

三輪　○阿か乃水　○ちう王子　○浅洲津

安宅　○鳴門たて破ま　○ましほ　○あし地山　○いろこどつま

○紙や国を遣はさうびる　○うちかごちふ　○もんだいびして

○阿わて車をちやんぞちよ　○八幡の御

東小　○法身説法の妙文くり　○めぐらす

蟬丸　○戒行いさくて　○さうてん小月日乃　○ださかう おち雨　○深木おちつめ

○まうき乃闇路　○ちうらんをとひをきつまちすのバたんに枕をと

○唐乃をいろし　○はいのぢと　○ちんつまをおち木末ふ乃ぼうま

○ろぎんふくぶり　○をいざうを戴く　○かちまりさてつる

○ぞとうお霧　○はくくとして　○ろいろんおけ　○もんだ

猩々　○ぢやうけうぢやうぎん　法華経　○けうまそくま　○せうと

○かまきんざんの林麓　○かつう好うとや

白鬚　○ちいらうたいらうちより　ちうしいらく是うやうてうう乃あめ

○たの/\御川りしてそおちつまちく　○指きさせる

浄土本縁
相離 サウ

樊噲ハ家
兎走 張飛
長阪橋の上

樊噲ハ家屠ノ匹夫なれとも沛公用ひて鴻門の危を
免れ張飛ハ牛刀を鍛賤郎なれとも玄徳義を結て
長阪橋の虎口を避しりとかや

浄土本縁經
相離遠離
∵ 落々石磊々

○だいろく乃ぎんかう 第九 減劫
○かきう世尊 迦葉
○をさゆき 授記
○ゆいきやう 遺教

○なんせんぶしう 南贍部州
○うがやふきあはせず
○仏法をつたふる乃 潔界

○かうくをいやく 誓約
○神楽さいばら 催馬楽
松風は琴のしらべ ○ぜんざい 善哉

盛久
○我ぞあまじる 愁 ○[illegible] 病
○つまぐり 摘
○今生おぼしめしかをば 闕
○まかりまし 罷 ニカリテウシヨ仕之

佛景 ○ぶいなより ゆう ちようよく乃 優色
○まがら 疏又 技蹻 ○ちくむら 肉
○五障三従 ○恩顔 容顔 ○跡もせみとぐく ○ちせこともせば 止

善知鳥
萌黄も[illegible]
○松原乃ちづえにまじる
○松島や雄島 因書 [illegible] ちづえ乃ちくさ ○和田 笠松 和田岬近辺

小塩 ○木曽の麻衣 ○行幸 行啓 ○[illegible] 下枝
○よ語ばひさすらひ 後備 跉 跰 ○ごまやかに 苫屋 ○かくれど ○千代童 ○竹具面 箕面山
○花に誦じて 映 ○勃 腹 ○やごとなき人乃 止事無 善知鳥 前前太平記巻之廿一 出 往見

耶鄲
○我国乃やうひさん ○菊乃露もおびらし ○浮世を宮ハ ○ひろ 宮
○天おさんづかうがい乃 盃 將 ○松陰のしずき ○つくばねの 筑波嶺 ○おし 瘖唖

穀生石
○雲水乃身はいづくにも定なき 雲水ニ 雲 ウンスイ
○とうめいかゝく 照 明 疾
○穀生石とふせきまいる 間 石 霊
○さもらば 携
○とうげ ハ 童
○幣帛を投捨 ○追つまくつ 倦
○きうくぶさまく ○ひきせの ○さわりにつもて
○ここれを 和名抄 石比刀太万比 又曽閉久流万 註 後乗之 ○たきの都 ○羽束師森
○いかき 斎籬 瑞籬 ○寄るぞれ ○ふせきと

信夫郡 ○錦木 ○けふ乃細布 狭布 ○もぢずり 戻摺 副車
○ひとだまかへ乃おくぶ 懐 ○おいせられて 華車
○事業の ○衣乃ためのちぎりびて ○うつ宮の燕も梁
はんかそろとちな思ふらしそと いつるふ同し 小篠ゆふまなせきそ同し
唐 ○そむしそゆり 筑前国那珂郡筥崎 ○かつ祖ぶきうし 孝子
弓八幡 ○ゑいぎょくおみぎん ○蓮台寺 ○不?いちり 前前太平記巻十六 陪従 群臣ニ宴 賜り ○えもいはず
錦木 ○粟飯 ○せつきんおさむ ○きびやかに 美麗 ○障泥
○えいうの緑 ○長刀 ○狂がね 披露 ○さきいにうかる
日本の大霊の向去 ○ぎょくぐあか ○雲母 キラ 端正 ○勢遣 ○列居
饑 ○不悪業
風 羽衣 ○雲路まよひて ○ぎよく婦乃ちかさとさしちやくふして
○浦廻 ○うきせの人 惑 玉 修理 長 ○[illegible]

○そめいろせんの 須弥山ヲ云

○ちやうちやくきんくご（笙 笛 琴 箜篌）　○まんぐわつさいぬ（満月）　○さいふさ（左右）

○さくきうとや　○なほかいさん　○大慶頭　○識もえぬ　○ゆふつくよ

龍虎

○あうぎんあ織ふふなん（行 布帆 耳従）　○天心はしちろてかんてん遥ちり（雁 點）

○道もめて 家を

○又八四堀おちひとつふも　○ろんやうもうろうとして（煙 葉 朦朧）おのれ

○ふうしせうさつとして（風枝 蕭颯）　○あしかゞ 芦鶴　○波濤海造の　○ゆ火へと　○家したらくに

廿戸刈

○くさのお里　○あごとちなる（調乃）　○津乃国おさや乃（昆陽）

敦盛

○さうえう蜂おもと（小枝 折）　○るいようえ枝をつらまし（連）

○まんせい法師（蓮生）

輪蔵

○大やの池ゟ（昆陽）

○うはなうら嫁打　○もせの法ず戸子身屋　○朱雀院ハ宇多天皇御所也　○未頭子　○もうえ所号蔵　○もえ生　○うらは末頭

○松うりよ（懲）

僻 かうめき 腰のかゞむ 屈也

寐（三歸）

○きいやうちやぢゆつを（覚 蒼頡 文字をつくりしを名として）

江島

○けんろんおちきをうつし（崐崘）　○いわう仏乃（醫王）　○をいてん遥ふ（晴天）

ほう羅いかい乃いきなひをはさへるらさんごおかさちはうたなり（蓬莱 形）

ちんふうだちよし哉うるかりぷ望さんちよみお玄乃風ぷちな哉（界 勢）

さ望がてらにわらゝめやかんていせいしやうをもちいびゐ（皇）

ちれうぎん乃秋おち月心すそごくいすて肉げるます謀ふ人間乃

めう記きんきやうの秘せきちより（墨 仙 境 跡）　○ふらひてん乃（不退転）

○天水ぶんうんきり　○かつひくたるいのぢち乃ひよりぜいく哉（鼓）

雷の落 がみおつ（霹靂）

萬天乃あひざふとがし　ゐきさま記帛をかくのごとし波浪（霹靂 裂）

蓮（レン）華 あ政

○まんぐゎつきぬ　○さいう
満月　左右

ん　○大庾嶺梅花　○識りも見ぬ　○ゆふづくよ

○天ゐはしちつてがんてん逆ちり

んやうもうろうとして　おのれ

煙　葉　朦朧　雁　犯

遠の　○炎火へと　○高もたらくに

る　○津乃国ながや乃

枝をつらまし　昆陽　連

蓮枝の

○ものうた所　○不弭子　○われ在

懶　萌　末弭

○杁とりよ

…乃　○をいてん逆ふ

情天

…やうおあきんへちようとうれども。

…ろうさんごおかさちはうたなり。

形

…さんちよみあ云乃風ぢなけ

…しいせいしやうをもちいびる。

…ふいさて爾げらます謀ふ人間乃

…り　○ふうてひてん乃

不退転

…るいのづち乃ひありぜいく哉

鼓

…己帛をさくのごとし波浪

裂

蓮（レン）生（セイ）ト称（トナフ）ルモノ鮮（センザン）山（ザン）吟（ギン）記（キ）ニ見ユ　書合備見キ

安政五年十月十六日記

杵（ショ　キネ　ツチ）

○金をいはんに似たり　○或ハ銅きよふを　○とうもんをうけて

○如くさ往　○胡髯乃あぎ（顋）ひげ　○七百余[illegible]おゐてかんしを経て

○波泊が絶軌をさきにあげ。○張緩が英声を後にいた

○後生じやうしやうど（清浄土）　○みんゐ乃形（因位）　○あいうん（靉雲）

九世戸　○ゐるふハぢ（丹波路）　○ぼさつ乃ざうをいたすも（像）　○ききうおもて

○まいざうを勧請（霊像）　○しやうじおけうを（生死）　○こせかくもの（覚母）

○龍宮の大[illegible]　○名しん火を（神）　○かふうちやうお（有頂）　○さいしやう老人

○日月ごうみやうぶつ（燈明佛）　○遍力まん（遍満）　○平地にはらんを（波瀾）

○農職とく

西王母

○北辰乃興ける数くお　光明かくやくとして　○てんをむ望そう（天仙）

○くいうきもの衣　○ぎよくちやうにもれる桃をぢぢよが（侍女）　○ひょう王ていうを（庭宇）

○道明寺　○そむぢやうと中　○七徳けうぢやう

時々　○よ時々く　○面[illegible]　○筑[illegible]　○からかこさいぞら。○たうくりと

屆て経　政　○大絃ハけうく（心を飾）　○小絃ハきいりく（切）

○服　○ひとつ乃えんぢやうハむひ中道（縁生・無非）　○人間ゆくえんぢやう

○ぐんしお中に　○海士乃ごり[illegible]　○蒙おふち　○執心きやくらいの（却来）　○さつて（去）

包（数）　○いなくえをやう（和尚）　○長花のせ[illegible]　○たうめいを惜まぬ　○とちとこ山　○まなこもとて（眼・眩）

○きりかうちほ乃ぐわ銭（倶梨伽羅）　大堰川　○くつぞこをあゆべ　○長刀曳そばめ

嵐山　○かい同語乃（居）　○蓮おまちのじり（瞬）

○笙　巌

大僧正行基よみ給ふ

法華経をわがえし事はたきぎこりなつみ水くみつかへてぞえし

南天竺より東大寺供養にあひに菩提がなぎさに来つきたりける時よみ給ふ

霊山の釈迦のみまへに契りてし真如くちせずあひみつるかな

返し

波羅門僧正　南天竺ノ菩提ガ事也

かびらゑにともに契りしかひありて文殊のみかほあひみつるかな

行基菩薩ハ俗姓高志氏泉州大鳥郡ノ人百済國王ノ後胤也

前々太平記巻之三 三四丁ニ出

大拾遺和歌集二十 哀傷ノ部ニ出

さびらうき　鏽

きらびやかに

端正キラく　万葉

雲母キラ　山城國愛宕ノ邊 雲母坂アリ

又 綺 四維ハ衣類也

爇ゼツ 又 焫 もゆる火に

野樵ニキラくハ 光麗ノ義也

障泥アフリ　あをりごと

西行法師が山家集　本歌 蒼述 出ル往見

花ちらばをりてぞ人のこふべきにちらさがりては

見る人もかねし衣

春の衣の袖に 君が 御名

老翁ノ謡中 ありの事乃 續キ也

景清

○是又そうぢお装（惣持）

○本尊おちまいらう（霊光）

○けんちやむ方ぞうへて　ちやく　ぶんかんちやうの（三昧　寂　然　閑　静）

○天をゆるき　きやうを見せて（清）

○ゆいうつぢつさう　ゆいつきんがう（唯有実相　唯一金剛）

○ばらもん僧正（婆羅門）

○かびらえ（迦毘羅衛国）

○ほつしやう国おさいことえ（法性　金）

○がうせんの　まいらう（剛山　光）

○さまじバ見ぶけハ（御山嶽）

○ちうざう世界（華蔵）

○みつごん浄土（密厳）

○中乃御前ハ（前）

○十まん普賢（萬）

○まんさんだいそう（満山護法）

○こそくげそく（挙足下足）

○扨ハ末世乃らうそ（高祖）　○竹篦

○だいせん（大山）

○さんぢやうしん（金峯山）

○御ちよう篭んふて（所変）

○君賢人をちかし（仁）

○願力腕力

○山びさお

○ばつくふ切をちぬし（寸斗）

○のまんなかごつて

○延展

○綾ハ天魔鬼神ちうとも（三塔）

○山禁

○引かづき（被）

○おのつぎ（斧）

白者

○布代ある

○長刀ちかうついで　斧カヅケル

○かほとけおぢる（健気　又勇ゲ）

悪坂

矢を番　鏑

○くふハさるもおち名日

○多門ハ矛をとうて（横）

○ちゆぢやうにあらざる金乃棒（柱　杖　鉄）

○降伏し　哭泣を併ひ

○やうなく神も（瘧　疫）

○ちつ婦じん（獅々奮迅）

○まつぶくちよう持ハ（往　雷復）

○大手をひろげて（播）

○山賊あ盗（與黨）

○達なが

○そよとももするをなよハ戦ふの

○もくまじやが（冠者）

○あんち（安置）

○ちせうちやき（支證）

朝津　越前ノ名

○けうやうにむうぜんとて（供養）

○れうおお馬（龍蔡）

○てつ壁き（鉄壁）

○法輪寺　○千代の名

○いらつて無坂　早足力

○けてくを婦こ

○他の国まで

○勅のいとも　かなこ

聖守

○ちばく（数）

○さいくまぎいりせて（採菓汲水）

○ごさんおろ二をいるの（多迦）

小猪

○三ふくりかう（倶利加羅）

○八面玲瓏

○ごさうごさうてん（悲想悲々想天）

○大地をかづこ乃まバ

（両臂）

○善鴛　鶻　又鶚

○ぢやうり（浄瑠璃）

張良

○山乃おいより見渡

（峡）

（陟）

麟やさと

「屋島」

清宗集 我袖は草の庵にあらねども暮るれば露のやどりなりけり 新勅撰集 業平

○あんき（安危）はたなごゝろ（掌）にてらし（照）百王（百王）のりらん（理乱）は心のうち

○身ぶるひ（戦）ろ（爐）

○さしつる池にうきも（浮藻）

○（網）をにらんで 白眼 斜眼

○ゆうぜい（遊）

にかけさま（懸）

○ちんの（人形）を

○又てんぐら（幣帛）

○きちやう（几帳）

○かじ井（梶井）

○ひとりとほうのまくら（枕）

一蓮托生

○か（かの）体をさそうせん

○平生の気色より已下九相詩見るべし

○いうるいあつたに眠てまちのぶるを

芳 体 新

○ひよう（飛揚）の魂いづくにか

飛揚 何

○るいくるところん（累々 古墳）

○えんでんするまゝに（宛転）

○がしやうだら（我此道場）によたいしゆ（如帝珠）十方三宝をいかでちんまいらせ

我此 如 帝 珠

三宝おづめをいそく納受礼

頭面 接足

○きうりを去て（舊里）

○ちつおとさらえいさい ちゆふりえ めいちよに帰る西海

幕下（左大将 唐名 世）

朔名 才 衆 起 君明智 世

我此道場如帝珠 十方諸神影現中 我身影現神祇前 頭面接足帰命礼 南無三宝

おをいとふ 西都

○ほつしやう（法性）の都をいでゝぶもんどうごの境にいり

法性 分段 同居 入

○本地かくれうぬま（覚王）

○ようこ（繞）かさねて

玄奘山（眞々）

○かんそうに（閑窓）煙絶て

○かうのころの（禁野）きんやにはげく

○いるさのかへるさ（月の入るさ）

○ちんぎの木（椰）

○大法のへいさん

○せい（生別離）

○ちしや（使者）

○ぎがく（伎楽）

谷行

○おうさめ（應作）くわん（観）

半蓮

○おいを出し蓮

○ごおう（後呪）

草

○ふかく（深）さ

○うがつてさる

○扇のつまとうたがし 爪紅

○ちうたんのいづこ

○雨ぎんく（原 憲）

○ちかき

○そうと 窓 頭

し丼たのきもを

○えんでんころまゆずこ 宛転

ころんれるる 墳

かむじゆおちんをいまい

○きゝう望をちて 奮星

えめいちよに帰去西海 名明智世

現神祇前頭面接足歸

ふ

うごね境ふいけしよけさいの 居 入

○よう□づ□さもと

おきんやふはづく 禁野

○せい□川てんの□ん 生別離

○ちうしや 使者

○ぎがく

○ふあくとざきり 深鎖

○雨ぎんく 原憲

○そうとうにむかふ□うぎいはきもちいふあさり 窓頭朧月琴瑟

ちうしやうね秋乃山あおそごね雲をや 愁傷

○ちゆきゝ扇乃つまいろうたいずしぬなしに

座

哥林良材抄ニ出

後撰

こゆふしぬむらかふに
まゆのはるけき めちあらは
こころはるゝ

目路 遠ク目ノトヾク道程ヲメヂト云也ト

祥源寺ホ
〇らいばん乃よよま 禮盤
車僧
〇きうどう風涼し
〇きんまくをそれども
〇あらし吹て
〇山嶺どよむまで 動
〇車乃わざちハ 輾
烏帽子折
〇帝ちゆ乃めに思召
〇かう乃殿 頭殿
大般若
〇酒功さん 賛
〇こん祢んどう 崑
〇えいく鬼々
〇きせ
〇うちかけ
鶴亀
〇いなへ乃錦や
〇うんけうおちまいてん 薀藻 禮奠
和布刈
五百重
〇ならのきいあの
〇あまのくかいろの 海路
〇温現 驗
〇ぶしく 不審
〇かいま見えさを 垣間見
〇だんちくろんの乃さやうをそむきけんのひを
早鞆
〇かいさうおこそのうも
〇さるまふき
賀朴 悲想

〇かうぎいてらし 海月
〇めざしぬらせてあ沖ふをま浪
〇たちふやさほをふこゆるぎお磯あ
大社
〇あじあお大明神
〇九州むなかた 宗像
〇いちきさおちや
〇とや乃大明神
〇たぐて
東方朔
〇たびらつて
〇三帝乃御殿ハをうう殿
〇春日 〇たいろて
〇殿おやうこのハ父をうちきんおあくいハ師匠をうけ
〇三世のよしえを思ひ 好
〇せんまうにんおふじ 蟠龍
〇かれと云捨
〇こやうさんをとるも 命根 断
土蜘蛛
〇此血をたどろん
〇土蜘約縮
舎利
〇ぎんちうを持
〇先きん
〇いちきをきいて 遺跡
〇こさんお松乃間ふを 孤山
〇きんくわんを見を 金棺
〇栴檀ぢむせでいろう 沈水香
〇よおもく

本居大人ノ撰ニ三音考五十三
ウ[加口]ンヲ[]ニタヤウニ云ヘ音便
諸司(ツカサ)ノ長官(カミ)ヲカウ[]カン[]云
カウト云ハ小督(コガウ)又頭殿(カウノトノ)ナド是也
カント云ハ督ノ君ナドアル是也

齋宮(サイクウ)ト書(カク)ハ伊勢也
齋院(サイヰン)ト書ハ加茂也
何レモイツキノミヤト云

又アル書ニ東宮ノ學士(ガクシ)
唐名ツハ太子賓客(ヒンカク)ト云

ゆるしでトふ字

大仏供ゝ宮　老を乞ひ　菅川行平ノ寄（大宮の宮司を作られたりけれへまゐる）
仁太行平　懸車ノ齢ナリ　人生七十古来希也。
述懐ゝ
翁さひ人なとかめそ狩衣けふはかりとそ鶴もなくなる
帝逆鱗ニテ須磨ノ浦へ流サル　行平左遷ノ事トナル。
前刻之年紀老之十六下ニ出　仁和二年ノ丁

詠よりしなれく玉をつゞせ　笠ちんされとうつせんうし　大星ノ　五十　紗名
鳥椎まてハ出家鶴まれかしこし

あれ揚せん　○蒲さゐほまりあ　○うつと川て
○肩とそく膝とくそ　交　討補
めせまい宜年あし海
めせくさむ角乃

○ぼうくと
夢々
○紀天やま天（夜摩天）　○ほうバうに（寶棒）　後周ノ次隋文帝煬帝二主　唐王李淵之前也
小坂治
○居ながら晋（秦）乃乱を治め　文帝の世の初　煬帝の世乃初　ちうじつ乃光
○壁耳岩語
○人るおもをいふ（巖屈）　○盾を流し　○ちかんをもそうかうころちしみぞある者
金甫
○天国ひつぎ乃　○洪（渇）　東南壇の上にて　三録の
生田敦盛
○若を守るいうこんハ（幽魂）　○庇をうしなふがちくハ（愚鬼）　○ちぶくばりて悪こころも（遙計）
古今ノ真名序云有先師柿本ノ大夫者高ク振ニ神妙之思ヲ獨歩セリ古今之間ニ上
六甫
草浜洗
△○救世乃提闡言山おせいを
松山読
○たいの屋を従（對）　○屋うたいの時（陽臺）　○きをだくおちは（金谷苑）
○叙おかうこおまゆだそうの　○唐ふちんしとて
千年二永成
○夫をも国乃主となり（楚ノ字カ）　○璧天をつらね（碧）
破璃の鏡
古今序注　ならちめおおやのかふこおまゆごもりいぶをくもゆるいもにあたびて
ならちめおおやのかふこおまゆごもりいぶをくもゆるいもにあたびて　ならちの

万葉ふ垂乳根ノ母我養蚕之眉ごもりと云ふ事なし後のあやまり
ならちのめの冠詞ならず
○かうべふぎよくば（頭玉座）　○まやうこをかづいて（霹靂）　○かく語ハされ
大江山　西川ハ大井守ニテ
○林藤乃ともあんだう（山陰道）　○酒天童子（顛）　○大師坊といふ法を人
一児二山王ト云ふ
○神をさくる（避）　○よさの海　丹後与謝郡名　○別てつだひハ山ぶし　○えをおなぞそ
紅葉
○がきやうげうつまうちや（何況造立者）　○きょうかうを（舊郷）　○げいみぞれ　○こござまあてゝう（兒玉）
俊成たる
○ぜんど猛まし（前途）　○がもざん乃（雁山）　○ちんおいの次で（新戒）　○大場がまね（顛倒）
七弱落
弱法師
○船乃せおいふ立ちがる　○暗闇
弦上
○えいらじもおどる　○ことぢを立（琴柱）　○ゐてもいくの声やうが（越殿樂唱歌）
○そよや
○やとうふどの降る（宮人）　○ちまん声やうおぬし（玄上）
○ぷひさし
杖庇
○耳をそばだて
○さいいんお昔（故院）　○ちつからでん

淺茅之 みなかみも行くところはとかし波もきこしのみそだしつ道ば

今よりハはらぶかくましゆきな

「弱法師

○彼一行の漂泊の旅　天竺ハ火羅國ナルヘシ源平盛衰記ニ出タリ

○宮まよひて上高子の擔當のそれほど業の氏を教へ

○皎月てらし　皎月ハしろき月

「岩船

えめくり　めぐりて

「合浦

水の雑

海原のくるる

浪ニ錦めくりて

○ほ木の山ハ深山あり

[illegible]

[illegible]

梅の詠子

[illegible]

咸陽宮ノ丁　後漢書ニ見ヘタリ

芦刈ノ趣　村上天皇天暦ノ比

鷺ノ藏人ノ丁　延喜帝ノ御時也

前太平記三十八ニ紙　左大臣俊房公云ク　延喜ノ朝ニハ詞ニ服メ鷺来リ棲軽ノ大臣八手ノ下ニ雷ヲ捕フニと

蔡邕が礼志ニ云。黄帝岐伯をして軍樂凱歌を作らしむ。今軍を凶れ時ニ楽あり。是遺意なり

凱歌

貝原ガ漢事始ニ云　皇甫謐が帝王世記ニ云　黄帝。岐伯をして醫業を定めしめ給ひて元疾を療しむ

説文ニ云　巫彭初て醫をなし。呂氏春秋ニも又いへり　巫彭醫をなせ

前太平記之三十八ニ有　延喜ノ朝ニハ詞ニ服メ鷺来リ棲　雷ヲ捕フ王事無監下王命ニ武　邪氣得テ不純ナルトコリ是候へ

かし皆もなきてしのみそだしつまば

表記ニ出タリ　○皎月てん　皎月ハしらあき月

子の採致のされほど豪氏を教へ

○山家木ノ山ハ心まあり
なふるそと美人徳ウ

淡海のくもそ　みれてる

幕うちまはし人知れぬ　明石の浦をむく来拂ふるなと

いまかくと　わとほしき　あてえまへの　偏は郎の松の

子梅乃失むや天子満るらん

鷺来り　棲軽ノ大臣ハ手ノ下ニ雷ヲ捕フるし

して軍樂凱歌を作らしむ今軍を酬ん時は樂あり。遺意あり

帝○岐伯をして醫薬を作らしめ治いて疾病を療さしむ

呂氏書秋にと又いふく巫彭醫をなれ

前文多く記之三十八ニ引
延喜ノ朝ニハ詔ニ服メ鷺来リ　棲軽ノ大臣ハ手ノ下ニ
雷ヲ捕フ　王事無シ盬キコト　王命ニ武カシ
邪氣得テ不ル侵ヘトコソ見え候へ

漢楚軍談

項王

力拔山兮氣蓋世
時不利兮騅不逝
騅不逝兮可奈何
虞兮虞兮奈若何

虞氏

漢兵已略地
四方楚歌声
大王意氣盡
賤妾何聊生

城南離宮ノ事

前太平記巻之三十四 十八丁

寛治元年上皇白河院白河ニ御所ヲ造ラセ此ニ住セ給ヘリ又都ノ南鳥羽ノ郷ニモ御所ヲ建テ城南ノ離宮ト号シ常ニ此ニテ御所ニ御座シケリ

与謝の海

巻

漆膠乃約

長弾のまゝなる。[illegible]の別れの

巻ノ名所ハ [illegible]

[illegible]の[illegible]の里に[illegible]
[illegible]の月 [illegible]の[illegible]

七十二代
白河院 應徳三丙寅年白川の御所を造 又
鳥羽殿をつくりて城南ノ離宮と号す

そこが竹垣 そこは篠ところかきは竹垣と
一説すとりゝら 垣ところ
千首 よみ人
さ山のすそこ竹垣あとあなたゆら秋の月のさびしさ あふにて

西行櫻
うつろ木かん
古言様に
きのうつほのみづ 木の穴の水に
半天河

盛衰記巻之十四 八紙
昔齊ノ桓公孤竹國ヲ伐ケルニ春往テ冬ニ還ル
深雪道ヲ埋ミテ歸ル事ヲ得ザリケリ菅仲計ラヒ
申ケルハ老馬ノ智ヲ用ユベシトテ老タル馬ヲ雪ノ中ニ
放ツ〻馬ニ随ヒ行ケレバ齊ノ國ニモ還リケリ云云
私ニ曰馬ハ往キタル道ヲヨク覚居テ忘レヌモノ也
況ヤ老馬ニ於テヲヤ

北條九代記巻第十二ヨリ六ニ至ル

九十五代
後醍醐帝ノ
先ノ帝ニ

花園院ト号シ 九十四代 萩原院ト称ス

豊後緒方ノ三郎惟義
元ハ尾形也
蛇子ヨリ五代惟義

一ノ冨仁親王ト申 延慶元年十一月廿六日 御年十二歳ニテ

御即位也

北條九代記第十二 二十五

信濃國佐久郡伴野トイフ所ニテ云云

前々太平記巻之十六ニ紙

子ヲ思フ闇老鶴ノ夜轉鳴ナル聲

夜鶴ノ巣ノ如ク(?)

前太平記巻之三十八 一丁

[illegible]ギラ

[illegible]魂極メ給フ

永保二年ノ秋 堀川院御不豫ノ一条ニ

前ノ奥州[illegible]義家鳴絃アリ